

厳罰化を求める陳情を伝える新聞各社の記事（2005/02/15）

朝日新聞

交通事故遺族厳罰化を要望

松尾町で同窓会に集まった人たちが軽乗用車に跳ねられ、8人が死傷した事件で、全国交通事故遺族の会（井出渉会長）が15日、ひき逃げ事件などの容疑者に対する厳罰化などを求める要望書を堂本暁子知事へ提出した。同会は松尾町長などにも同様の要望書を提出することにしている。

要望書提出後に県庁で会見した同会のメンバーたちは松尾町の事件にも触れ、「飲酒運転を隠すためにその場を立ち去り、その後自首するなどの容疑者の自己保全を許すことはできない」などと話した。その上で、ひき逃げへの厳罰化を求めた。

同会は91年、交通事故で家族を亡くした遺族らで結成され、現在全国に1千人の会員がいる。同会は04年12月にも、法務省に対し、ひき逃げを危険運転致死傷罪に含めるよう求めた法改正の要望書を提出している。

読売新聞

ひき逃げ厳罰化陳情 遺族の会 松尾8人死傷で知事に

松尾町で起きた八人死傷のひき逃げ事件を受けて、全国交通事故遺族の会（井出渉会長）の会員七人が十五日、ひき逃げ事件の厳罰化に向けた協力を求める陳情書を堂本知事あてに提出した。

悪質な無謀運転による重大事故の厳罰化を巡っては二〇〇一年十二月、業務上過失致死傷罪よりも刑罰が重い危険運転致死傷罪が施行された。しかし、同罪の適用には、酒酔い状態や制御困難な高速度走行などの立証が必要。ひき逃げ事件の場合、加害者の飲酒量などの特定が難しく、適用が見送られるケースもある。

こうした現状を踏まえ、同会は、昨年十二月、国に「ひき逃げ事件にも危険運転致死傷罪適用を可能にすべきだ」などと陳情。今回の陳情書では「国に対し、ひき逃げ事件の厳罰化を求める意見書の提出を」と要請している。

知事室を訪れた同会理事の片瀬邦博さんは、「飲酒ひき逃げ犯の多くが現場から立ち去り、時間の経過で深酔を隠し、刑罰の軽減を図ろうとする。悪質極まりない犯人を許すわけにはいかない」と語った。同会は近く、松尾町の古谷淳町長と同町議会にも同じ内容の陳述書を提出する予定。

毎日新聞

ひき逃げ事件の厳罰化働きかけ 全国交通事故遺族の会が知事に要望書

松尾町で8人が死傷したひき逃げ事件を受け、交通事故遺族で作る「全国交通事故遺族の会」（井出渉会長）は15日、堂本暁子知事に対し、ひき逃げ事件について危険運転致死傷罪を適用するなど、厳罰化を国に働きかけるよう求める要望書を提出した。今後、松尾町長、町議会議員にも同様の要望書を提出するという。

同会は要望書で、松尾町の事件で業務上過失致死傷と道交法違反で逮捕された田中容疑者（31）について「大変悪質」と批判。田中容疑者は事件前に飲酒したと供述したことから、「飲酒し酩酊していることを隠すために逃げたとしか思えない」としている。

同会は事故前の昨年12月、ひき逃げ事件の厳罰化を求める要望書を法務省に提出していた。この日会見した同会の片瀬邦博理事は「道交法の救護義務違反（ひき逃げ）の罪は軽い。飲酒運転などで事故を起こした加害者は罪の重い（刑法の）危険運転致死傷罪の適用を逃れるため、現場から立ち去ろうとする傾向がある」と指摘した。

千葉日報

「ひき逃げ厳罰化を」
事故遺族の会が県に要望

松尾町の県道で同窓会帰りの男女八人がひき逃げされ、四人が死亡した事件を受けて、交通事故の被害者組織「全国交通事故遺族の会」の会員が十五日、県庁を訪れ、ひき逃げ事件の厳罰化を求める要望書を提出した。

要望書は、道交法のひき逃げ（救護義務違反）は刑罰が軽く、飲酒運転の事故の際に酩酊を隠すために立ち去る容疑者が多いと指摘。

被害者を放置し、保身を図るひき逃げには、より重い危険運転致死傷罪の適用などが必要としている。そのために堂本暁子知事が国に働きかけることを求めている。

同会の片瀬邦博理事は「ひき逃げで家族を失った会員もいる。昨年未、法務省に厳罰化を要請したところだった。衝撃的な松尾の事件が起き、あらためて早急な対策が必要と感じた」と話した。

同会は一九九一年に白井町（現白井町）で設立された。県内を含め会員は約千人。近く、同様の要望書を松尾町長らにも提出する予定という。